

「テーマの成果指標及び結果」

テーマの成果指標及び結果

成 果 指 標	①地域行事・PTA 行事参加者の 5 パーセント増加 ②地域人材を活かした授業づくりの推進（個別指導の充実） ③活用力を伸ばす授業づくりの推進	
成果指標の結果	（現状） ①すべての地区で参加者が増加した。 ②全ての学年で 2 時間は確保できた。 ③ 2 教科中心の取り組みであった。	（目標） ①参加者を前年度以上に増やす。 ②サブティーチャー制の導入を推進する。 ③ 4 教科において行う。さらに、今年度以上に全国学力学習状況調査結果の向上を目指す。
	（目標） ①参加者を前年度以上に増やす。 ②サブティーチャー制の導入を推進する。 ③ 4 教科において行う。さらに、今年度以上に全国学力学習状況調査結果の向上を目指す。	（結果） ①情報発信の頻度と量を増やし、子育てのほほん集会や授業参観の実施を行った。その結果、地域集会では 3.5 パーセントの参加者の増加をみた。また学年 PTA 行事の参加者も軒並み増加の傾向が見られた。 ②各学年の学習にゲストティーチャーの要請をし、実施した。朝の読み聞かせは、低中学年は毎週火曜日に、高学年は隔週火曜日に実施した。 ③国語・算数を中心とし、4 教科で取り組んだ。全国・県の学習状況調査及び 1 月実施の標準学力検査では、事前の学習として活用的な問題にあたる経験を多くした。また、結果を受けての補充的な学習の時間では、特に、活用力を伸ばす問題に多く取り組ませ、教師の支援を厚くした。

(結果の考察)

- ・ 地域行事や PTA 行事への参加を呼びかけるため、案内プリントを始め、各種の通信（校長だより、学年だより、学級だより）や本校ホームページ、連絡メール（まちコミ）等を利用した。携帯電話の普及により、より確実に情報を知らせることができ、保護者の参画の意識を高めることにつながったと考える。このことは、地域連携協議会の部会でも報告された。
- ・ 総合的な学習の時間を利用した体験学習として、今年度も5年生は米作りに挑戦した。5月のもみまきから12月の餅つき（PTA 親子行事をとりいれて）までの取り組みをJA嬉野支所の地域ボランティアの方々や保護者に協力を要請し行った。また、社会科見学では、神埼町の吉野ヶ里歴史公園に古代米栽培や米作りの歴史を見学に行き、体験、観察、情報収集する学習を行った。地域人材を活用した学習に年間を通して取り組むことができたと考える。
- ・ 魅力ある学校は、魅力ある地域で育つという考えのもとに、地域の方々によるゲストティーチャーの要請をし、カリキュラムに基づき活用した。全学年にわたる読み聞かせは、PTA 児童文化部や地域の読み聞かせサークルの協力を得て行った。読書に対する児童の関心も徐々に高まりを見せ、充実した内容になった。また、今年度嬉野市で全国ユニバーサルデザイン（UD）大会が開催されたこともあり、4年生では特に専門性の高いUDについての学習を、ゲストティーチャーを招いたり、学校から出向いたりして学習を深めることができた。このように、専門性を高め児童への体験活動をより充実させたいとの思いから、主に生活科や総合的な学習の時間において、地域人材を活かした授業を全ての学年で多く取り入れることができた。職員の姿勢が地域人材を活用する結果に繋がったと考える。

- ・ 児童の「活用力」を伸ばす指導は、習得から活用、さらに活用から習得というように、スパイラル的学習の上に成り立つものである。

本校でも基礎基本の習得を土台とし、校内研究では学習過程に「対話活動」を導入している。自分の考えを分かりやすく相手に伝えたり、また相手の考えを聞いてその良さや自分との相違に気がついたりし、そのことが伝え合う楽しさを実感すること・相手を尊重していこうとする態度を育てることにつながる。このようなことを根拠に今年度も全ての学年学級で授業研究会を実施した。また、活用力を伸ばす指導については国語・社会・算数・理科の4教科について取り組んだ。全国・県の学習状況調査及び1月実施の標準学力検査では、事前の学習として活用的な問題にあたる経験を多くした。その結果、全国・県の学習状況調査においてとくに5年生ではすべての教科で県の平均を上回る結果が見られ、1月の標準学力調査においては、2・5年生において活用力が市の平均を5パーセント以上上回る結果となった。

- ・ 学力の定着のためには、望ましい学習環境づくりが必要と考え、全職員で共通理解をして、基本的な生活習慣や学習習慣の定着に向けて全校で取り組んだ。児童の変容を確かめ、意識付けするために月に1回の調査を行った。その結果として、授業前の学習の準備やチャイム着席など、児童に変容が見られ、学習環境が整えられてきたと言える。

